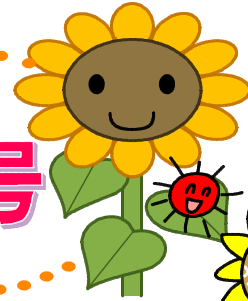




進学塾アベックス

# アベックス便り 8月号

令和4年 8月吉日



## おしらせと今月の行事予定

※24日迄夏期講習実施中!!

2学期に備える、苦手科目の克服など計画的に過ごして、充実した夏休みにしましょう!

- 回数設定自由、テーマに沿った個別指導申し込み受付中!お早めに!!
- 夏季強化合宿…若干名、参加枠有ります!



### 今月の予定

- 11~13日
    - ★夏季強化合宿[受験生]
  - 24日迄…夏期講習実施中
  - 11日~17日…夏季休暇
    - ★全講座クラス休講
- ※コロナ感染予防の徹底をお願いします!!

### 塾長の呟きブログ

## ●人生は一度きり。自分の夢大陸を大航海の旅の果てに発見出来れば、超ラッキーと思えば良い…[vol.3]

前回は、壮大な人生ドラマに必要な要素に[宿命][運命][天命][使命]の[命]のマネジメントを考察してみた。自分らしい生き様を模索しながら、自分らしく輝ける[天命]まで昇華できれば、最高の壮大な人生ドラマと言っても過言でないだろう。その実現の為に夢を絶対に諦めない『一度きりの旅』とも称した。人生は、誰もが周知の事実として[一度きり]で生きている。時代や環境や背景は異なれども、奇跡の連続の[生命の伝承]を担って、この世に誕生したのは[何らかの意味]を模索し[何らかの役目]を感じて、壮大な人生ドラマの主演を演じるのが本来の意義であろう。

この世に一切の無意味が無いのと同様に、誰一人としてこの世に無意味な人生なんて存在しない。ただし、自分が主体となって人生ドラマの主演を演じるのと、他者に翻弄されて彷徨うばかりの人生ドラマには、天地の開きがある様に思う。特に、『一度きりの旅』を『夢大陸発見のための大航海』と重ねて歩んできた私の場合、『宿命』の甘受は、前に一歩踏み出す為の必要条件だったと思う。抗うことのできない『宿命』を絶対肯定して、一切を自分の中に受け入れることは、大海原を前に筏レベルの船体でも、島々を転々と辛うじて辿り着きながらも、船体の補強と改造を重ねながら、なるべく大洋に繰り出すための準備と、その決意の地固めと並行に、まだ見ぬ夢大陸への想いを馳せながら、出航の瞬間を伺っていた少年時代があった。そして、私の出航に絶対不可欠なものが、圧倒的な『強さ』を身に付ける事と、行動の全てを自己責任遂行する『覚悟』の二点であった。その為の『生きる力』と『洞察』と『知恵』は幼児期から少年時代へと成長の過程で否応なしに鍛えられていった。

環境と時代背景と受け継いだDNAがその原点となり、出生から物心がつく幼年期を経て、中学生を終える思春期あたりで感じ得た体験や、諸々の『宿命』を絶対肯定し且つ甘受するなかで培ったものばかりであった。昔の人は良く言ったもので、なるほど『匠つ子の魂百まで』のように、幼児期の環境や親の価値観を包括した原体験は、身体の一部として血肉となり後の成長の礎にもなり、計り知れない程の糧となる。善悪に関わらず糧となるから、今まで親業を経験し、孫にも囲まれる祖父業も楽しませて貰っているこの頃では、ますます幼児期の発育環境の重要性は、身に染みて感じるばかりだ。私自身は我が子二人の実子を育てる前に、誕生する以前から確固たるイメージがあり、実際の子育て時代にはイメージ通りの信念を貫き、また色々な紆余曲折はあっても、子供たち自身にも期待に副うような成長に恵まれ、子供を中心に家族との日々は、毎日が楽し変化する珠玉の時間を過ごせた自負がある。子育てと言ってもとてもシンプルで折目、節目に応じて、『直球で勝負せよ』と自分で考えろ』と父の二倍できて普通』を徹底させただけで、自身も翻弄せず、子供たちを迷わせず、子供たちのあるべき方向性への[導き]だけは怠らなかった。どの親も子供の将来に対しては不安な持つものだが、子供は生まれた最初から[別人格]だが、[DNAを共有]する[生命]としての属性も兼ね備えているので、客観的な距離感を保つことが難しい。だが、程よい距離感を維持しながら、時には血と肉を交えるぐらいの過剰な溺愛で包むことで、微妙で絶妙な[さし加減]をバランス良く保ちながら、子供の成長と共に交流にも長けてきたように思う。まあ、気合を入れて子供たちと真剣に毎日を過ごし、日々の成長を楽しみながら過ごしてきた、といった処だろう。ところが一転、やはり孫に至っては、傍観的な立場もあり、また孫たちに嫌われない為の努力に傾倒するあまり、決して子育てには良くない(我が子には絶対しなかった)事も、ついついやってしまう甘やかしが有り、可愛がるだけで良い(無責任)な愛情で包むので、年に数回会えるかどうかの物理的に離れて暮らす現況の方が、孫の成長にはきっと良いのだろう。話が子育てに脱線しそうなので、後に我が子、わが孫の誕生は、私の夢大陸の重要な部分を構成しているので、また改めて後述することにして、自身の『宿命』の絶対肯定から甘受する幼年期から思春期、そして青年期までの時代を振り返ってみたい。

その為には、私の両親の[宿命]から振り返らない訳にはいけないので、生前の両親と交わした回想と、彼らの歩みの背中を見続けてきた記憶を頼りに、命の伝承のバトンを次世代に繋いでいきたいと思う。

### ◆マイリタイーとして生まれたのが幸運…育んだ感性と生きる力…そして出逢い

私は、朝鮮半島から渡来してきた在日一世の両親のもとに大阪で誕生した。戦前から渡来した両親は、大変な苦勞をしながら戦火を生き抜き、戦後焼野原の何も無い中で若くして結婚し、五人の子供(長男は生後すぐに死亡)を設け、四人を育て上げた昭和一桁の筋金入りの苦勞人だった。両親が日本に渡来した経緯は、まさに時代に翻弄された宿命を、個人の力では何とも出来ない背景を背負って渡来したと言える。

[裏面に続く]